東肢連

第80号

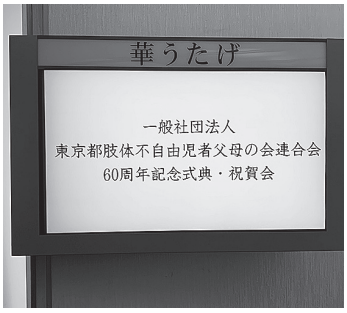
令和2年3月30日発行

一般社団法人 東京都肢体不自由児者父母の会連合会
会長　河井　文
〒171-0021 東京都豊島区西池袋4-3-12
☎03-5956-3335 FAX03-5956-3336
事務局　E-mail : toushiren@toushiren.or.jp

目次

東肢連創立60周年記念式典・祝賀会報告…… 1
東肢連創立60周年記念式典 主催者あいさつ …… 2
東肢連創立60周年記念式典 来賓祝辞…… 3
東肢連創立60周年記念式典 参加者感想 …… 6
令和2年東肢連新年懇親会報告…… 9
令和元年度 関ブロ「地域指導者育成セミナー」報告・感想…… 10
令和元年度 ブロック情報交換会報告…… 11
事務局通信・編集後記 …… 15

東肢連 創立60周年記念式典・祝賀会報告



2019年11月12日（火）ホテル雅叙園東京に於いて東肢連創立60周年記念式典・祝賀会が行われ多くのご来賓、会員の皆様にご出席をいただきました。

開会の言葉に続き、亡くなられた方々への黙祷の後、主催者を代表して河井会長より挨拶がありました。

来賓を代表して、東京都福祉保健局障害者施策推進部長 松山祐一様より小池百合子東京都知事の祝辞を代読していただき、東京都議会厚生委員長 斉藤やすひろ様、東京都教育庁特別支援教育推進担当部長 高木敦子様、日本肢体不自由児協会理事長 遠藤浩様よりお祝いのお言葉をいただきました。

ご来賓の方々のご紹介の後、長年に渡り当会に貢献していただいたコカ・コーラボトラーズジャパン㈱、FVジャパン㈱、㈱東京在宅サービス、島手そうめん販売㈱、品川区肢体不自由児者父母の会 佐藤浩子様に感謝状の贈呈が行われました。

感謝状は当会会員のお子さんが一字一字想いを筆に込めて作成されたもので、授与された方からは感動のメッセージをいただきました。終わりに祝電が披露され式典が終了しました。

休憩後、祝賀会となり目黒区長の青木英二様、東京都肢体不自由特別支援学校長会会長 庄司伸哉様よりご挨拶をいただき、全国肢体不自由児者父母の会連合会会長 清水誠一様によるご発声で乾杯となり、皆さまそれぞれにお料理を楽しみながら、懐かしい方々と歓談をされていました。

アトラクションとして声楽団体二期会マミーシンガーズに所属の宮山淳子様によるオペラが、ピアノ伴奏とともに披露され会場が盛り上がりました。日頃、オペラを生の声で聴く機会のない障害の子供を持つ私たちには、とても新鮮で沢山の元気をプレゼントしていただきました。

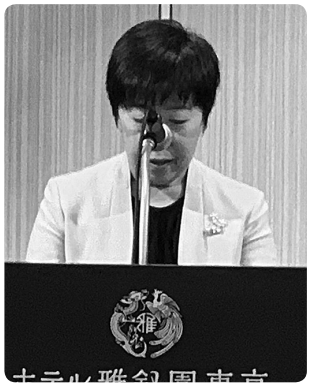
祝賀会も盛況のうちに時間となり、閉会の言葉で無事終えることができました。

終わりに、式典、祝賀会にご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

（広報部　小栗 敦子）

主催者あいさつ

東京都肢体不自由児者父母の会連合会
会長 **河井　文**



本日は大変お忙しい中、東京都福祉保健局障害者施策推進部長 松山様、教育庁特別支援教育推進担当部長 高木様、東京都議会厚生委員長 斉藤様はじめ、たくさんの関係団体、関係機関の皆様のご臨席を賜り、私ども東京都肢体不自由児者父母の会連合会創立60周年式典を迎えることができました。変わらずご理解、ご支援をいただいてまいりましたご来賓の皆様には深甚よりお礼申し上げます。また、本日は、東肢連の歴代役員の方々や地区の歴代会長の方々にもご出席いただいております。父母の会の礎を作り育ててこられた諸先輩方に深く感謝申し上げると共に、今後ともご指導、ご鞭撻いただけますようお願い申し上げます。

60年の間に、皆様のご尽力により、子供たちは学びの機会を得、就労の可能性が広がりました。何よ

り権利の主体としてその存在が認められるようになり、障害を理由とした差別を禁止することが法律で定められました。障害者に関する制度も、措置から契約となり、本人の意思が尊重され福祉サービスを選択して利用できるようになっています。

ただ、現在でも差別が存在し、社会の中で様々なバリアーがあります。また、制度があっても事業所や人材の不足から、十分な支援を得られない人も多くいます。誰もが取り残されない社会の実現にはまだまだ解決すべき課題があると思っています。

先日まで行われていた、ラグビーワールドカップ、たくさんの方が会場で、パブリックビューイングで、家庭のテレビで観戦されたと思います。私もテレビ観戦でしたが釘付けになって観ていました。その中で、『One for all, All for one』という言葉が話題になっていました。この言葉は、『ひとりはみんなのために、みんなはひとつの目的のために』という意味だそうです。ラグビーはトライをあげて、試合に勝つために力を合わせますが、私たちは、子供たちが「地域で安心して心豊かに暮らすこと」を目標に力を合わせて活動しております。これからもこの目標に向かって、“ONE TEAM” で取り組んでいきたいと思います。

東京都並びに東京都議会はじめ関係機関・団体の皆様、各地区の会員の皆様の益々のご健勝を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

来賓祝辞

東京都福祉保健局障害者施策推進部長

松山　祐一 氏

本日、知事が公務のため欠席をさせていただいておりますので、知事からのご挨拶を代読させて頂きます。

このたび、一般社団法人東京都肢体不自由児者父母の会連合会が創立60周年を迎えられ、記念式典がこのように盛大に開催されますことに心からお慶び申し上げます。また、河井会長をはじめ、貴連合会の皆様には日頃より東京都の障害福祉施策へのご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。貴連合会創設の昭和30年代は、肢体不自由児者に対する福祉施策や制度が十分ではありませんでしたが、皆様の熱心な活動がその後の施設整備等の原動力になったと伺っております。以来貴連合会は、都内各地域における活動を通じ肢体不自由児者及び重症心身障害児者の福祉向上のために尽力されてこられました。皆様の長年のご活動に深く敬意を表する次第です。

東京都では、昨年3月「東京都障害者・障害児施策推進計画」を策定しました。障害のある方が地域で安心して暮らすことのできる社会の実現を目指し、地域における居住の場や日中活動の場の整備を推進しております。重症心身障害児者へのサービスを担う看護師の確保や質の向上、医療的ケアを必要とする方へのサービスの充実に向けて引き続き支援してまいります。昨年10月には「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」を施行しました。すべての都民が共に暮らし支えあう共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

さて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会がいよいよ来年に迫りました。東京が誰に対しても安全安心な街になるよう、ハード・ソフト両面からバリアフリーを一層推進してまいります。また誰もがいきいきと生活し活躍できるダイバーシティの実現に向け、様々な施策や取り組みを加速させてまいります。今後とも皆様のご意見を伺いながら、関係機関等と連携し、福祉施策の更なる充実を図ってまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

結びに東京都肢体不自由児者父母の会連合会の今後益々のご発展と、会員皆様のご健勝とご多幸を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

令和元年11月12日　東京都知事 小池百合子

東京都議会厚生委員長

斉藤　やすひろ 氏

このたび、一般社団法人東京都肢体不自由児者父母の会連合会が創立60周年を迎えられましたこと、都議会を代表いたしまして心からお慶びを申し上げます。皆様におかれましては、昭和34年の創立以来昭和・平成・令和に至る長きに亘り、都内各地域において様々な活動を通じ肢体不自由児者及び重症心身障害児者の福祉の向上と社会参加の促進のため、大きな役割を果たしてこられました。河井会長はじめ歴代の皆様の連綿たるご尽力に対し深く敬意を表する次第でございます。

東京都では、すべての都民が共に暮らす共生社会の実現に向け、昨年10月「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」を施行したところです。また「東京都障害者・障害児施策推進計画」を策定し、どんなに障害が重くとも地域で安心して暮らせる社会、能力や適性に応じていきいきと働ける社会の実現を目指し、様々な施策を展開しております。しかしながら、医療的ケアが必要な障害児の多様なニーズへの対応、人口減少社会における福祉人材の確保など新たな課題も生じています。

国連サミットでは、SDGｓ「持続可能な開発目標」という世界共通の目標を掲げており、障害施策の前進も大事な位置を占めています。2015年に採択され、わが国では安倍総理大臣を本部長とする推進体制ができており、都も2030年に向けて、誰一人とり残さない包摂的な社会を作ることが重要であると強調されています。

都議会としても、新たな時代に向けて皆様と手を携えながら、障害者の方々が安心して暮らせる社会、誰一人とり残されない社会を築くため全力で取り組んでまいる所存です。皆様におかれましても、本日を契機に益々結束を固めワンチームとして、障害児、障害者の福祉向上のためより一層のご活躍をされることを期待いたします。結びに、東京都肢体不自由児者父母の会連合会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は大変におめでとうございました。

東京都教育庁特別支援教育推進担当部長

高木　敦子 氏

本日は、東京都教育長藤田裕司に代わりましてご挨拶を申し上げます。

このたび、一般社団法人東京都肢体不自由児者父母の会連合会におかれましては、創立から60周年の歴史を歩まれましたことに敬意を表しますと共に、本日の記念式典に際しまして心からお慶び申し上げます。また、河井会長をはじめ貴連合会の皆様には、日頃より東京都の教育施策にご協力を頂いておりますことに厚く御礼を申し上げます。

都の肢体不自由児への教育は昭和７年の東京市立光明学校の開校に始まりますが、貴会が創立された昭和30年代より、２校目の小平養護学校開校に続き順次整備を進めてまいりました。希望者の全員就学を国に先駆けて昭和49年に達成し、個別の教育的ニーズを踏まえた個別指導計画のもと、指導実践を重ねてまいりました。特に都独自の取り組みである、保護者参画による指導計画の作成は、全国的にも注目の高いところです。

東京都教育委員会では、障害のある幼児・児童・生徒の自立を目指し、個々の能力を最大限に尊重して社会に参加、貢献できる人間の育成を理念とし「東京都特別推進計画第２期」に基づき、教育の環境と内容の充実に取り組んでおります。医療的ケアにつ

いては平成元年度から国に先駆けて開始し、看護師の確保や実施者の育成など体制の充実を図っております。現在約700人の子供たちに提供しております。30年度からは医療的ケアを必要とする児童生徒のための専用通学車両の運行、人工呼吸器を利用する児童生徒のケアを実施する学内体制の整備についての検討開始等、取り組みを強化しています。

来年度は推進計画の改定年にあたります。貴会のご意見を賜りながら教育施策の更なる充実を図りたいと考えております。今後とも引き続き皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。結びに、東京都肢体不自由児父母の会連合会の益々のご発展と、会員の皆様とお子様方のご多幸を心より祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

令和元年11月12日　東京都教育長　藤田裕司

日本肢体不自由児協会理事長

遠藤　浩 氏

東京都肢体不自由児者父母の会連合会　創立60周年記念式典がこのように盛大に開催されることを心からお慶び申し上げます。

父母の会の歴史を振り返りますと、父母の会の運動は当協会創立者の高木憲次博士の提唱により昭和初期から始められましたが、当時は障害のある人たちを巡る偏見や無理解から、なかなか進展が見られませんでした。当協会は昭和30年に療育指導誌「はげみ」を創刊しましたが、貴連合会創立に携わった方々が都内の「はげみ」読者150名の方々に父母の会結成の案内をされ、それで集まった方々が中心になり会結成の運動が本格的に進んだと伺っております。昭和34年には都内各地で創立された父母の会がまとまり、東京都父母の会連合会が結成され、この度創立60周年という輝かしい節目を迎えられました。貴連合会は当協会の中に事務所を構えられていたこともあり、様々な関係で共に歩んでまいりました。障害がある人たちが直面している困難、その解決に向けた運動に理解が得られにくい環境の中で、貴連合会は地域での充実した生活の実現と社会参加の促進のため、さらには共生社会を目指して3つの時代に亘り常に独自性を発揮され、かつ、献身的に活動に取り組んでこられたことに深く敬意を表する次第です。

障害がある人たちを取り巻く課題はまだ数多くありますが、当協会もこれらの課題を解決すべく関係の方々のご協力をいただきながら、手足の不自由な子供を育てる運動、心身障害児総合医療療育センターの運営など一つ一つの事業に丁寧に取り組みます。特に来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるので、これを契機にスポーツや障害者の芸術文化活動に関する事業も貴連合会との連携を図りつつ、力を傾注してまいります。結びにあたり、貴連合会を支えてこられた多くの先達をはじめ会員の皆様のこれまでのご尽力ご苦労に改めて敬意を表しますと共に、貴連合会の益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございました。

（広報部　岸井 泰子）

創立60周年記念式典感想

品川区肢体不自由児者父母の会　佐藤　治子

2019年11月12日（火）目黒雅叙園で行われた東京都肢体不自由児者父母の会連合会創立60周年記念式典に参加させていただきました。

多くの来賓・各地区の会員のみなさまが集う中、開会の辞の後、亡くなられた関係者への黙祷、河井文会長の挨拶があり、小池百合子東京都知事の祝辞（代読）を始め、来賓の方々から祝辞を頂戴しました。そして来賓の紹介、長年父母の会へ貢献していただいた方々への感謝状贈呈、祝電披露と続きました。

感謝状は、ご寄付をいただいているコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社とその自動販売機部門を担当しているFVジャパン株式会社、会議の場所を提供いただいている株式会社東京在宅サービス、お中元・お歳暮の品をお世話いただいている島手そうめん販売株式会社へ贈呈されました。また東京都肢体不自由児者父母の会連合会からの依頼で東京都福祉相談事業の相談員を務めております私も感謝状をいただきました。大勢の参加者の前で壇上に上がり河井会長から賞状を渡されるという栄誉を受け、緊張とともに、感動の体験でした。ありがとうございました。

思い返せば、2007年、私が神経難病の患者会NPO法人ジストニア友の会の副理事長として、初めての国会請願のための署名活動への協力を品川区肢体不自由児者父母の会　前会長であり、東京都肢体不自由児者父母の会連合会　元会長の﨑村茂久氏へお願いしたことから、肢体不自由児者父母の会とのお付き合いが始まりました。私も肢体不自由者ということで、障害当事者会員として品川区肢体不自由児者父母の会に入会しました。現在は事務局を担当し会報発行、補助金申請書作成など行っています。署名活動から数年後、私の患者会での経験を評価いただいたようで、﨑村氏から相談員就任を依頼されました。それから毎月1回、東京都障害者福祉会館で相談員をしています。

実は患者会の署名活動で熱心に多くの署名を集めて下さったのは患者当事者ではなく、患者の親でした。肢体不自由児者父母の会でも、お子さんへの親心には力強いものを感じます。創立60周年を迎えるに至った原動力といえると思います。私も微力ではございますが、今後も協力してサポートを続けて参りますので、よろしくお願い申し上げます。今後の東京都肢体不自由児者父母の会連合会の益々のご発展をお祈りしております。

東肢連60周年記念式典に参加して

北区肢体不自由児者父母の会　田中　淳子

東肢連の創立60周年記念式典・祝賀会が11月12日目黒雅叙園で行われました。会場に入ると定例会等でいつもご一緒していた面々の姿が多く見られ懐かしく思いました。

障害が一種・一級、全介助という娘をもつ私はいつも娘の介助に忙しく、一回の食事に40分か1時間、通所への送り迎え、入浴介助に夜中2～3度の寝返り補助といった毎日の生活になかなか余裕が持てませんでしたので東肢連の集りは貴重な学びの場でした。親は我が子の望むことは何でもさせてあげたいものです。自立は出来ないにしても心豊かな人生をおくらせてやりたいと常に願っていました。学校卒業後の生活の場の確保、通所生活の充実、健康維持の為の工夫、社会参加等々、東肢連では種々な問題に取り組んできており、その解決に向かって皆で力を合わせ活動しております。私もその一員として毎月行われる会合には出来るだけ出席するようにし、終わると飛んで帰りました。又関ブロ、父母の会全国大会にはショートステイにお願いして出かけました。重度障害の娘を受け入れてくれる施設は数少なくて

苦労したものです。

東肢連では例年、短期入所施設の整備、入所施設の整備、グループホームに関する諸問題、医ケア問題等々東京都に要望を提出していますが、私達の先輩がこれまでに実現させてきた福祉施設を更に推し進めていく為に東肢連の果たすべき役割は大きいと思います。

2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年というので、先日北区に出来たバリアフリー化されたスポーツ施設、ハイパフォーマンススポーツセンターNTC・イーストをまちづくりの一環として見学してきましたが、選ばれたパラスポーツ選手だけでなく、障害のある人もない人も共にスポーツその他種々なことを楽しめる共生社会の実現をめざして、今社会が少しずつ動き出しています。

私達は地域の格差を無くし、どんなに障害が重くても生まれ育った地域で安全に安心して毎日が暮らせるよう、共に努力を重ねていかなければならないと感じました。

東肢連　創立60周年記念式典祝賀会に出席して

小平肢体不自由児者父母の会　大西　光子

令和元年11月12日、東肢連の創立60周年記念式典、祝賀会に出席させて頂きました。当日は前々日の祝賀パレードの日と同じように雲一つない晴天の日でした。会場も式典にふさわしい目黒雅叙園でした。御来賓4名の方々にご挨拶いただいて、10名のテーブルがたくさん設置されて本人や会員総勢170名ほどの盛大な式典、祝賀会でした。

私は御来賓の御挨拶を伺いながら大勢の方々に支えられて、私たち障害者と家族の生活が成り立ってきたのだと深く感じました。会場では友人たちの消息を聞く事も出来てなつかしく思いました。又、もうお会い出来ない方々をしのびました。息子の友人の消息の中では年齢も50才をこえていますので、一人暮らしをしている人、グループホームで暮らしている人、入所施設で暮らしている人の話題が上がりました。

私が小平の会長を務めていた頃は東京都に重度身体障害者のグループホームの制度を創設してほしいと要望していた頃でした。あれから20年近く経ちますが障害者の生活の場に関する課題は多々あると思います。会場では私が最高齢者かと思い、地区の会長を退いてから10年余り、後続の働き盛りの方々が活発に活動されているお姿に接して東肢連の未来を明るく感じました。

この式典を挙行された役員の方々御苦労様でした。ありがとうございました。又、式典の中で感謝状の贈呈が行われました。コカ・コーラボトラーズジャパン㈱はじめ5～6社に贈呈されました。もっと多くの一般企業の名前があったらいいな、と思ったりしました。身近な所から、可能性として会員のお子さま（勿論大人ですが）が勤めている会社とか会員さんが勤めている会社とか、等をターゲットにして呼びかけを行うのは如何なものかと思います。差別解消法の実現に向けての各地区でやれる事をやってみようという実践をはじめとして東肢連からも企業への働きかけを行う事も一つの提案かと存じます。

70周年に向けて期待を抱きます。

創立60周年記念式典に参加して

大田区肢体不自由児者父母の会　福田　功志

2019年11月12日(火)、東京都肢体不自由児者父母の会連合会創立60周年記念式典に参加いたしました。

開会の言葉、台風被害で亡くなられた方々への黙祷、河井会長の挨拶、東京都知事の祝辞（代読)、来賓の方々から祝辞を頂き、来賓の紹介、感謝状贈呈、祝電披露、閉会の言葉、第2部の祝賀会と続きました。

60年という永きに渡り会が存続していることを思いますと、諸先輩方のこれまでの活動に対して感謝いたしますとともに、引き継いでいく私たちはこれからどのように活動していけば良いのだろうと不安がよぎります。ただ間違いなく福祉のサービスは日々良くなってきていると実感しています。この状況を維持しながら少しずつ良い方向に向かうよう努力していきたいと思います。

第２部の祝賀会では来賓方々の挨拶後、美味しい料理を頂きながら宮山さんのオペラ歌唱を楽しみ閉会しました。ちょっと思ったことは、諸先輩方の話が少し聞けたらなぁ…と思いました。

最後に、この式典の準備、開催に関わってくださった執行部の皆様に感謝致しますとともに御礼申し上げます。式典開催、楽しい祝賀会ありがとうございました。

東肢連創立60周年記念式典・祝賀会に参加して

足立区肢体不自由児者父母の会　幸野　啓子

11月12日、目黒雅叙園にて東肢連創立60周年記念式典・祝賀会が行われました。

東京都肢体不自由児者父母の会連合会河井会長の挨拶のあと、東京都議会厚生委員長、東京都福祉保健局、教育庁、日本肢体不自由児協会理事長より、それぞれご祝辞をいただきました。次に、東京都肢体不自由児者父母の会連合会の活動にご協力いただいている団体の方々に感謝状贈呈を行いました。ご来賓も多くおいでくださり、大変盛大な式典になりました。祝賀会は目黒区長の挨拶、全国肢体不自由児者父母の会連合会会長の乾杯の後、プロの歌声を聞きながら、会食や他の父母の会の皆様と親交を深めた和やかな会でした。

今、私は父母の会の先輩方が作っていただいた道を通っています。就学前は通園や訓練といった療育、学齢期になると就学し、卒業後の進路まで、子供たちが社会の中で生きる居場所をつくっていただきました。先輩方が一つひとつ作っていただいたものです。本当にありがたいことです。もちろん、親の願いだけで作れません。たくさんの皆様、東京都並びに東京都議会をはじめ関係機関・団体の皆様のご理解ご協力があったからです。そのご理解ご協力をいただくまでには先輩方のたくさんのご努力があったと思います。この式典・祝賀会に参加して、ご来賓の皆様から心からの祝辞をいただき、東京都肢体不自由児者父母の会連合会への信頼を強く感じました。価値観が多様化しても、時代が目まぐるしく変化しても、子供の幸せを願うことは絶対に変わらないものです。子供の幸せを守れるよう、皆様と力をあわせていきたいと思いました。

令和２年　東肢連新年懇親会報告

1月18日（土）上野精養軒に於いて、東肢連新年懇親会が開催されました。当日は雪の舞う中、約100名の参加をいただきました。

昨年11月に東肢連60周年記念式典・祝賀会を行い、多くのご来賓の皆様にご出席いただきましたので今年度の新年懇親会は、会員と事務局のみの内輪の開催となりました。

12時より濱川常務理事、墨田区の菊池会長の司会進行で始まり、河井会長の挨拶の後に乾杯となり、食事を取りながら歓談の時間を過ごしました。

地区連絡会等では、その時の議題についての話が主ですが、この懇親会では、自分の地域以外の会員とゆっくりと話す時間が持て、他の地区のこと等を伺うことが出来て、勉強になりました。

続いて、恒例の抽選会が上野事務局長の進行で行われました。今回は多くの有志の寄付があり、全員に景品が当たる抽選会となりました。

後半のカラオケ大会では、今年度は時間の余裕もあり、内輪の会ということで、例年よりも多くの方が壇上に上がり得意の歌を披露してくださいました。

最後に、三井副会長の閉会の挨拶でお開きとなりました。

（広報部　池邉 麻由子）

令和元年度 関東甲信越ブロック地域指導者育成セミナー 報告

令和元年10月23日（水）～24日（木）　新潟市「ANAクラウンプラザホテル」で開催されました。

このセミナーは公益財団法人JKAの補助事業として毎年全国7ブロックで障害者父母の会の保護者を対象にテーマに添って障害者福祉に関わる制度や、講義を通じて意見交換や情報を共有し、地域の父母の会の活性化を目的としています。

一日目、主催者、全肢連の石橋副会長に続いて新潟県肢連　寺山仁一会長よりご挨拶がありました。

テーマは「コミュニティーのある応急仮設住宅のあるべき姿」で講師の認定NPO法人DPI日本会議事務局次長の今村登氏から災害時、一時避難所は利用できるか、福祉避難所は機能したのか、障害者は仮設住宅に住めたのか、公的支援からの排除、非顕在化する障害者について説明がありました。

続いて自立生活センターSTEPえどがわコーディネーター　市川裕美氏から台風19号時、避難希望者があり対応したが、要支援者用の福祉避難所に収容するには無理があるので避難所をあてにしてはいけない。自宅も避難場所と考えておく。仮設住宅については障害者、高齢者が安心して生活できるユニバーサル住宅の建設が必要であるとの説明がありました。

二日目、新潟県立東新潟特別支援学校校長　高橋淳氏による特別支援学校での地域防災計画の概要と一般避難所、福祉避難所に対する考え方についての講演でした。

今、日本全国で何が起こるかわからない時代になったとし、2004年10月に発生した中越地震の体験から、ハザードマップの必要性、避難訓練の実施、避難所の確保、関係団体との連携、そして自分たちの住んでいる土地を学ぶ、過去に学ぶとして、地震は広域で起こる、水害は一定地域で起こっている、火災は一瞬で起こると想定し要支援者に対する避難マニュアルの作成の重要性を説明されました。

最後に防災グッズを作ってみようと参加者全員で、ゴミ袋で簡単なレインコートを作り試着しました。

一日目、二日目共にグループ討議を行いましたが、それぞれの地域、自治体により支援内容に違いがあることが判りました。

総括として

- 避難と避難場所は同じではない
- 地区防災対策の作成は各自治体で決めて良い
- 災害時、要支援者名簿は一斉公開してよい
- 救援物資について

避難場所、自宅以外に避難している場合、その場所を届ければ救援物資が受けられるが実際には行われていないのが実情であるとの報告でした。

（広報部　小栗 敦子）

指導者育成セミナー　関東甲信越ブロック感想

世田谷区肢体不自由児者父母の会　坂　ますみ

令和元年10月23日～24日

新潟県新潟市　ANAクラウンプラザホテル

第1日目　テーマ

「コミュニティーのある応急仮設住宅のあるべき姿」

講師　DPI日本会議　　事務局長　今村　登 氏

自立生活センターSTEPえどがわ

コーディネーター　市川　裕美 氏

第2日目　テーマ

①**「肢体不自由児者の防災対策」**

東新潟特別支援学校校長　高橋　淳 氏

②**「手作り防災グッズを作ってみよう」**

全肢連　事務局

1日目は今村氏から写真を使ってのこれまでの災害の振り返りがお話しされました。東日本大震災や熊本地震の避難所や仮設住宅の説明があり、西日本大豪雨の話がありました。

障害者の多くが建物内の1階部分で亡くなっていること、静かな増水、じわじわと水が浸水してくる事態に、逃げる時間があるにも関わらず逃げることができなかった。支援さえあればという言葉に胸が

詰まりました。では、避難行動要支援者への支援がないのかというと、東日本大震災の後の平成25年に災害対策基本法が改正され、避難行動要支援者名簿の作成が義務化されました。しかし、ここから個別計画が作成され、発災時の避難誘導へつながるのかと言えば、個別計画はあっても、「誰が、誰を、どのように誘導するのか」の実行ができるものではないという現状です。私たちが自分の自治体を見ても個別計画を見たことがないのではないでしょうか。避難所での生活に於いても、一般の避難所では避難生活は送れないと思われます。今村氏は、これは公的支援から漏れるということではないかとおっしゃっていました。

後半のグループワークでは、19日の台風で大きな被害があったばかりだったので、とても盛り上がりました。千葉県の当事者の方がグループにいたので、ポツリポツリと話す事に、そうだよね、とみんなで共感しました。

2日目、最初は東新潟特別支援学校高橋校長先生から避難時の困難さや、受け入れ病院の無いことや、名簿作成の現状などのお話を聞きました。その後、学校での災害時の対応を教えていただきました。実体験を語ってくださったので、お話がとてもわかり易く、有意義な講義だったと思います。

最後は、時間がなくなり、防災グッズの作成はゴミ袋のカッパでしたが、これは世田谷で6月に災害対策ワークショップ特別篇として見学に行った東京臨海広域防災公園の防災体験学習施設「そなエリア」で作ったものと同じでした。

2日間通して、まだまだ避難行動要支援者に対する避難所の在り方や支援は問題が多いことを痛感しました。

令和元年度 ブロック情報交換会報告

Aブロック

報告者　勝呂 みゆき（台東区）

- **参加地区**　足立区　墨田区　江戸川区　葛飾区　台東区　事務局長
- **開催日時**　令和2年1月23日(木)11時～13時45分
- **開催場所**　台東区浅草「天ぷら大黒屋　別館」　雷門集合―浅草寺参拝―情報交換会
- **参加人数**　31名
- **テーマ**　宿泊を伴う研修会や旅行及び日帰りバスハイク等の各区の状況

○各区2019年度実施報告

台東区：参加者54名　栃木県鬼怒川温泉　1泊2日　9月7～8日実施

墨田区：参加者23名　山梨県河口湖温泉　1泊2日　7月6～7日実施

葛飾区：参加者49名　神奈川県横浜山下公園　日帰りバスハイク　11月4日実施

江戸川区：参加者23名　千葉県鴨川温泉　1泊2日　6月2日～3日実施

足立区：実施せず

令和2年1月の浅草・浅草寺雷門を集合場所とした23日は、冷たい雨が降り続く寒い日となりました。当番区が台東区ということもあり、また1月開催であったため、浅草寺でお参りをし、短い時間でしたが散策、買い物を楽しんでもらい、浅草「天ぷら大黒屋」を会場として、テーマ「宿泊を伴う研修会や旅行及び日帰りバスハイク等の各区の状況」とし情報交換を行った。参加5区のうち3区は1泊2日の研修会を実施。1区は日帰りバスハイクを実施。1区は実施せずだった。

今回実施せずの区の事情は、参加費が高い等の理由で年々、参加希望者が少なくなり数年は会で負担して行っていたが、今までの協力体制が一定期間得られない状況になったためバス旅行は実施していなかったが復活に向け検討中とのことだった。

共通問題として、①実施に向け費用調達（台東区は団体自主活動助成金の中から、研修費を捻出しているが、他は社会福祉協議会に助成申請による活用。利用料の割引や障害者仕様の部屋を持っているなど、利便性の高さからチャリティーがある宿を利用している）②リピーター使用は使い勝手がわかっていた

り、慣れているという良い点もあるが、マンネリ化してしまう。③重度重複など難しい子ほど連れていきたいと考えるが、リスクを考えると、場所や移動時間、リフト付きバスの手配、宿の使い勝手、利用料などでどの区も苦労している。④しかし障害者にとって、日常の生活は狭まりがちになる中、外出により得られる障害当事者の潤いや楽しさを奪うことなく、なんとか続けていきたい、復活したいと思っている区が多いということがわかった。

Bブロック

報告者　菊地 絵里子（品川区）

- **参加地区**　大田区　目黒区　中央区　江東区　品川区
- **開催日時**　令和2年1月23日（木）11時～14時
- **開催場所**　品川区立障害児者総合支援施設
- **参加人数**　21名
- **テーマ**　昨年10月1日に開所した「品川区立障害児者総合支援施設」の見学と各区との情報交換

◆施設説明　障害者福祉課　施設担当岩澤氏による説明を、地下一階の多目的ホールにて、施設のパンフレットをもとに受ける。その後、一階のカフェ「みんなのテーブル」(就労継続支援B型）にて、ランチを頂いた後に各区との情報交換を実施。

◆情報交換会

品川区　品川区立障害児者総合支援施設（以下、新施設）は、 計画では、子供たちの短期入所も、医療的ケアの方も通所もできるということだったが、現在、短期入所は18歳以上、医療的ケアは受け入れられていない。今後徐々に受け入れる方向でお願いしていくが、法人が、どこまで問題意識を持って取り組んでもらえるかによる。計画の段階では、障害者福祉課は新施設で医療的ケアも含めて受け入れるということだった。

医療的ケアの現状　区内に短期入所はない。一昨年から都立荏原病院（大田区）でレスパイトが可能になったが、日中活動はないため、入院する感じになる。

区内短期入所施設　かもめ園（総合福祉センター内）・かがやき園（福栄会）の9床（うち1床は緊急一時のため常時空けている)。医療的ケアが無くても、厳しい状況。新施設の現在の受け入れは、1日3床でMax定員はまだ受け入れができていない。充分な稼働までには何年もかかりそう。

大田区　大田区立障がい者総合サポートセンターさぽーとぴあB棟の開所により、医療的ケアの方の短期入所利用が可能になった。特徴としては重度の方向けのミスト浴（体を温める)、センサー付きのベッド（ナースステーションと連携）がある。短期入所は2フロア10床で、まずは1フロアから始めているが、満床になれば2フロアの使用となるのか。B棟の運営委託先は、社会福祉法人　全国重症心身障害児(者)を守る会。1階に特例子会社のカフェ（地域交流スペース）が入っている。

目黒区　令和3年4月に複合施設「こぶし園」が開所予定。18名の身体の入所施設、2名の短期入所、40名の生活介護（内30名が身体）医療的ケアにも対応するとしている。現在2箇所ある短期入所（各2名）は医療的ケアの方を受け入れられていないので、新施設がきちんと対応してくれることを期待している。民設民営で、運営は社会福祉法人徳心会。その他、令和2年7月より心身障害者センターあいアイ館内で、医療的ケア児を含む重心の幼児発達支援センターと放課後等デイサービスが開設予定。センター、放課後等デイ合わせて1日5名。

江東区　障害者多機能型入所施設　当初、平成23年に計画があがり、ようやく令和5年度開設予定となった。45名の入所・60名の通所・6床の短期入所・地域交流スペースの条件のもとにできる。現在事業所募集中で、1月末に決定。医療的ケアなどの重度の方の通所は、近くの東部療育センターで週4日、墨東新卒業生は週2日以内と決まっているため、在宅を強いられているのが現状。新施設では、「医療的ケアを管理できる法人をベースに選ぶのか」という話をしたが、基本的には法人に丸投げなので、法人がどこまでできるかによる。また東部を利用できない医療的ケアのない車いすの方は、ほとんど他区を利用している分、新施設の6床の短期入所では、入浴施設等の設備面も含めた車いす利用者の問題点を解消してほしい旨を今後要望していく。

中央区　平成31年4月に重度と医療的ケアの方の利用できる放課後等デイサービスが開所したが、3

ケ月後には儲からないということで撤退した。区も慌てて次の事業所を探し、9月からは順調に運営している。通所は区の福祉センターの1か所しかなく、医療的ケアもそこで預かってもらえるようになった。また、気切の方が通えるように、東部の先生との連絡会で勉強してくれるようになったので、期待している。

レインボーハウス明石、区内の短期入所はここしかないので、2ケ月前の予約は毎月厳しい状況。医療的ケアの方は、東部療育センターを利用しているが、レインボーハウスは、ほぼ2泊3日しか受けてもらえないので、医療的ケアのない方は長い短期入所の利用ができない。箱モノは作らず社会資源サービスの時間を充実させているが、受けてくれる事業所が限られている。

Cブロック

報告者　杉原 千鶴子（杉並区）

・参加地区　北区　板橋区　練馬区　杉並区事務局長

・開催日時　令和元年5月29日(水)10時30分～15時

・開催場所　永福南社会福祉ガーデン・ウエルファーム杉並

・参加人数　41名

・テーマ　施設見学「永福南社会福祉ガーデン・ウエルファーム杉並」

杉並区役所から　同行説明者

諸角　障害者生活支援課長

山本　障害者施策課管理係長

障害者施策課　合田氏

杉並区役所にて挨拶・見送り

森　保健福祉部長、河合　障害者施策課長

《内容》

10時20分　区役所ロビーにて森部長、河合課長の歓迎のあいさつを受け、区役所のマイクロバス2台に分乗。乗車の際、区役所で準備された資料の袋を配布

1号車には諸角課長、合田氏、2号車には山本係長が同乗し、杉並区の施設など概略を説明

11時～12時　永福南社会福祉ガーデンで現地直行の方々と合流。

施設案内は工藤サービス管理責任者。1階の通所部門と2階の入所者の部屋など見学しながら、質疑応答。

12時40分　再びバスに乗り、ウエルファーム杉並へ。乗車中はそれぞれ車内で他区からの参加者と区職員の間で質疑応答など

1時10分　ウエルファーム杉並の3階で昼食、部屋を移動して杉並福祉事務所荻窪事務所長と担当課長が説明役、2グループに分かれて1～5階及び隣接するキッズルームを見学。見学後再び会議室にて質疑応答

3時　ウエルファームで帰る方もあったが、バスに乗車し区役所まで戻り解散。

配布資料：杉並区障害福祉計画・障害児福祉計画、杉並区保健福祉計画目（各区数部程度）心身障害者のてびき、すまいるの案内、防災＆支援ハンドブック、高齢者の防災読本、ハート in ハンドほか、父母の会会報　区からクリップ、ウエットティッシュ、バッジ

《報告等》

今回は杉並区保健福祉部の全面的な協力、支援があった。バスの手配、資料の準備、昼食場所の提供など他区からの参加者への配慮が様々にあった。

子どもたちの送迎時間に間に合うよう配慮しながら見学先を2か所まわることは、杉並区の協力あって実現したことと思う。

バス移動中も区職員により杉並区の福祉についての説明、質疑応答がなされ、時間を無駄なく使ったことはよかった。

バスが2台に分乗になったので他のバス車内の様子は後で情報交換することとなった。

Dブロック

報告者　小栗 敦子（小平市）

・参加地区　府中市　武蔵野市　三鷹市　小平市

・**開催日時**　令和元年12月17日（火）
・**開催場所**　障害者地域生活支援ステーション「わくらす武蔵野」
・**参加人数**　15名
・**テーマ**　施設見学　障害者地域生活支援ステーション「わくらす武蔵野」

2019年12月17日（火）武蔵野市にオープン（2019年3月1日）した障害者地域生活支援ステーション「わくらす武蔵野」を見学しました。

主に重度の知的障害者、重症心身障害者の福祉サービスを実施しており地域の中でつながりを豊かに、自分らしく生活できることを目標にしているとの事です。

・入所支援は4つのユニットがあり
　1F　男女混合ユニット（重度、最重度の知的障害）入所10名、短期1名、体験1名
　1F　男女混合ユニット（重症心身障害者、重度、最重度の知的障害）入所8名、短期1名、体験1名
　2F　男性ユニット　（知的障害、自閉症）入所10名、短期1名、体験1名
　2F　女性ユニット　（知的障害、自閉症）入所8名、短期1名、体験1名
　（夜勤の勤務は各ユニット1名が配置され0時、3時に点検）

・体験入所は最長6ヶ月間、短期入所は地域の障害児者で送迎も可能。
・ナース対応（福祉型）
　7時～21時30分勤務　医療的ケアを必要としている利用者入所（2名）
・日中活動は、個別支援計画を作成し個人に合ったライフスタイルを考え、作業、健康作り、地域活動等を行っている。
　朝9時にB1Fにある活動室に移動し15時30分、各ユニットに戻る。
・入浴は週3回
・食事は毎食厨房で作られ、利用者に合った形態で提供されている。

見学を終えて同じ法人が運営する武蔵野市役所の食堂に移動し、昼食を取りながら、武蔵野、府中、三鷹、小平の各市の参加者と意見交換をしました。

その中で、入所施設、グループホームについては、いづれも以前より各自治体や各法人による取り組みや利用内容が時代や利用者のニーズに合わせて変化しているように感じました。

Eブロック

報告者　山本 まゆみ（中野区）

・**参加地区**　渋谷区　新宿区　世田谷区　中野区
・**開催日時**　令和元年11月27日（水）　11時～14時
・**開催場所**　障害者支援施設　江古田の森　地域交流スペース
・**参加人数**　12名
・**テーマ**　アロマテラピー ～介護疲れとストレスを解消！～

講師の清水先生はアロマテラピー歴20数年とのこと。ご自宅でプライベートサロンも開いていらっしゃいますが、地域の方々からのご要望で出張講師もなさっていらっしゃいます。当日は一般的（初心者向け？）の4種類のエッセンシャルオイルをご持参下さいました。

エッセンシャルオイルは本来、薬剤として使用されていたとのことで、日常的なアクシデントの際に向いているオイルの種類と使用方法をご紹介下さいました。

昼食後の実践研修では2人1組で施術し合いました。日頃は施術する一方の我々ですが、互いに施術し合うことでリラックスし、初対面の方同士も打ち解けて楽しんでいただけたようです。

参加者の子供たちの中には、薬剤に過敏で市販のものが使えない場合もありますので、先生への質問がたくさん出ましたが、どれにも即答くださいました。とても参考になったそうです。あまったオイルを持ち帰れる容器をあらかじめご用意下さっていたので良いお土産となりました。

事務局通信

《 東京都肢体不自由児者父母の会連合会　賛助会員募集のご案内 》

東京都肢体不自由児者父母の会連合会では、賛助会員の募集をしています。

賛助会員会費　個人会員一口　　3,000円
　　団体会員一口　10,000円

尚、賛助会員の皆様には、年3回発行の会報「東肢連」の発送や各種イベントの案内をお送りさせていただきます。

つながる募金を行っています

当会ではソフトバンクが提供する「つながる募金」の寄付サービスを行っています。

スマホやPCから簡単に寄付ができ、携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができます。

ホームページトップページの左下にあるバナーから当会の「つながる募金」ページに入ることができます。

よろしくお願いいたします。

Toushiren!
東京都肢体不自由児者父母の会連合会

編集後記

会報80号をお届け致します。昨年11月12日（火）に行われました東肢連創立60周年記念式典・祝賀会を中心に報告させていただきました。

今回は、新型コロナウイルスの全国的な感染が報道される中、部員同士が集まれないという環境下ではありましたが、テレワーク等を行うことで発行することができました。

また、東肢連では現在2021年9月18日（土）に開催予定の全国肢体不自由児者父母の会連合会東京大会に向けて準備を進めております。皆様のご協力をお願い致します。

広報部一同